

令和4年度復職支援研修
講義・演習コース実施報告

講義・演習コース3：令和4年12月8日（木）～12月9日（金）

1. 目的

就業を希望する者に対し、最近における看護知識・技術を修得させ、未就業看護職に再就職を促すとともに就業の継続支援を目的とする。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新たな看護業務の発生や看護職員の休業等で緊急の要請があった場合、協力可能な看護職が不安なく業務に従事できるようにする。

2. 開催日

講義・演習コース1：令和4年12月8日（木）～12月9日（金）

3. 開催場所

宮崎県看護等研修センター

4. プログラム

(講師敬称略)

回数	午前	午後
1日目	開講式 9:20 看護の動向 (9:30～10:30) 看護に関係する社会環境の変化や最近の看護に関する動き等を学ぶ 宮崎県ナースセンター長 小城一代 復職支援講座 (10:40～11:20) ・職場の選び方・履歴書の書き方・職務経歴書の書き方・面接の受け方 キャリアコンサルタント 荒川貴代美 自己紹介・意見交換 (11:20～12:00) 受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める。	感染管理 (13:00～15:30) 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。感染予防の基本的技術を習得する。個人防護具の着脱の演習。新型コロナウイルス感染症対応を理解する。 講師：平和台病院 感染管理認定看護師 柳原由美子 ナースセンター登録の支援 (希望者のみ)
2日目	フィジカルアセスメント (9:30～12:00) 患者の状態から緊急性の有無を明確に判断・把握し、必要とされる看護ケアへつなげることー看護観察から判断まで (講義・演習) 講師：宮崎大学医学部附属病院 小児救急看護認定看護師 野崎久美	医療安全研修 (13:00～15:30) 身近に起こりうる医療事故について知り、予防策について学ぶ。新型コロナウイルス感染症対応を理解する。 講師：川崎伸子 (元宮崎江南病院 副看護部長・医療安全管理者) 研修の振り返り (15:30～16:00) ラインチャートを使って

5. 受講者の状況

① 受講者：10名（未就業者 9名）

② 取得看護免許

看護師 6名 准看護師 4名

③ 年齢：22～68歳（平均 43.3歳）

年代	受講生数	構成比
～29歳	3	30%
30～39歳	0	0%
40～49歳	3	30%
50～59歳	3	30%
60歳以上	1	10%

④ 看護職経験年数：0.0年～40年（平均14.1年）

経験年数	受講生数	構成比
1年未満	3	30%
1～5年未満	2	20%
5～10年未満	0	0%
10～20年未満	1	10%
20年以上	4	40%

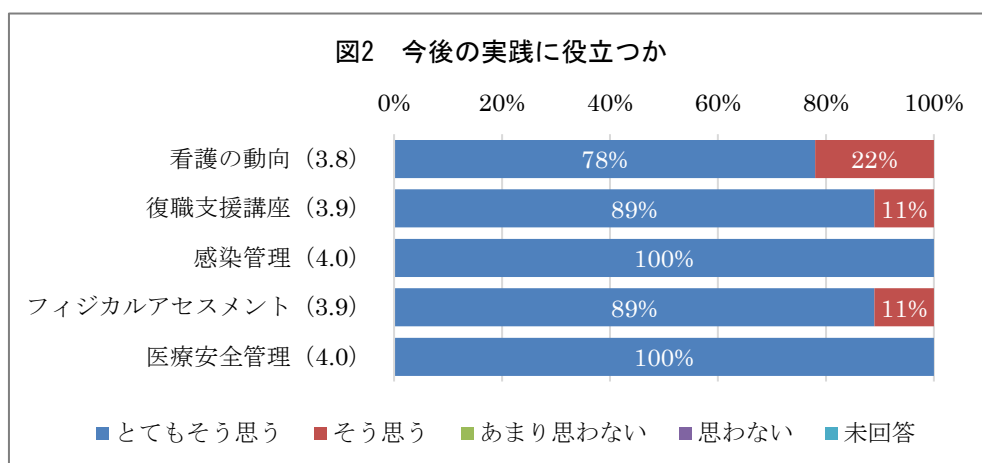
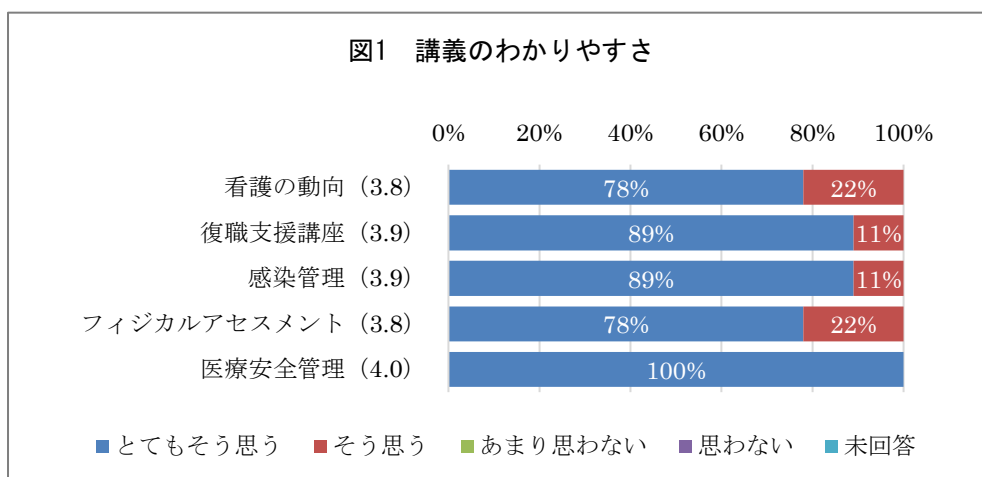
⑤ 未就業者9名の最終離職(または免許取得)から受講までの期間(ブランク期間)
0年～26年（平均6.5年）

ブランク期間	受講生数	構成比
1年未満	5	56%
1～5年未満	1	11%
5～10年未満	1	11%
10～20年未満	1	11%
20年以上	1	11%

6. 結果

各講義について、＜理解度（わかりやすさ）＞＜今後の実践に役立つか＞について4段階評価尺度と自由記述方式によるアンケート結果で示した。

1) 各講義のアンケート結果



2) 自己紹介・意見交換

(1) 内容

① 目標

受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める

② 内容

- ・ キャリアの棚卸を活用し過去の振り返りと今後について考える
- ・ アイスブレイクと受講生自己紹介
- ・ 意見交換

3) 受講しての感想

- ・ 復職に向けてわからないことだらけで不安だったので参加した。有料職業紹介所について紹介手数料がかかっていることを初めて知った。
- ・ 研修はわかりやすかった。この研修が役立つと思った。
- ・ 良い体験となった。今回の研修を活かしていきたい。
- ・ 研修受講させていただきありがとうございました。看護師の資格を活かし地域に貢献していきたいという気持ちがさらに大きくなりました。
- ・ 数年前から復職支援研修に参加したいと思いながら参加申し込みをできずにいました。今回参加して不安や自信がないのは自分だけではないことがわかり気持ちが楽になりました。最近の情報と支援をととてもありがたく思います。これからは積極的に研修に参加したいと思った。
- ・ 様々な事情を持った方が参加されており、不安な気持ちを持つのはみんな一緒だと思った。
- ・ 今後は実技にも参加したい。
- ・ 講義や演習で講師が詳しく教えてくださり理解しやすかった。来年の就職するにあたり心構えができた。
- ・ 研修やこういった場所にすごく久しぶりに来たので緊張した。長い間、医療現場から離れているので忘れていたり初めて知ることも多かった。わかりやすかった。
- ・ 看護学の基礎的な部分を改めて学び直すことができた。
- ・ 自分で大丈夫だと過信せず、疑うべきところは疑い、考えて行動することや誰かに相談することを忘れずに生活していこうと思う。
- ・ 講義では、具体的な方法や根拠を教えてもらった。わかりやすく、理解することができた。今日、学んだことを看護の現場で活かしていきたい。
- ・ 有意義な研修だった。原点に戻って再就職で今回の講義を役立てたいと思った。医療安全のDVDを見て怖かったが基本的な確認をすることで防げる事故もあるので気をつけたいと思った。緊急時の対応も勉強になった。
- ・ フィジカルアセスメントでは、患者の変化をしっかりと観察し気づくことが大切なことだと思った。意識レベルの見方（JCS 評価、GCS 評価）で状況を把握するのは難しいと感じた。
- ・ 看護師としてフィジカルアセスメントに習熟する意味やヒューマンエラーによる医療事故の防止の重要性を認識できた。
- ・ 苦手な聴診の研修が受けることができてよかった。フィジカルアセスメントの研修はブランクの現実を思い知らされた感じがした。忘れていたことが多すぎて復職するのが不安になりました。
- ・ 忘れていたことを再認識できた。新しい知識を得ることができて職場に活かしたいと思った。

4) 取り入れてほしい講義

- ・ AED、救急看護
- ・ 寝衣交換、おむつ交換、清拭、体位交換、移乗動作、吸引
- ・ 老人看護、施設での看護師の役割
- ・ 南海トラフ地震の発生する時期も迫っていることから災害時における看護支援の内容を学びたいと思った。
- ・ コミュニケーションスキル

7. まとめ

広報は、情報誌、新聞、市町村広報誌、ハローワーク等で行い、研修の申込は12名であったが体調不良等に伴い10名の参加となった。

研修内容については、アンケートの結果のとおり満足度の高いものとなった。演習をすることで感染管理や个人防护具の着脱についても理解が深まっていた。受講者間のつながりや自分だけではないという気持ちになり励まされたという感想もあった。

受講者は参加することを決心し研修に申し込み、会場に足を運ぶこと自体にも不安を感じている。その不安な気持ちに寄り添いながら受講者の状況に合わせ就業を支援していきたい。